

調査速報

外食需要動向（2018年4月）

前月の伸びの反動により、4月の家計の 実質外食支出金額は前月比マイナス

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2018年4月の家計の実質外食支出金額は3か月ぶりに前月の水準を下回った。前月の実質外食支出金額が高い伸びとなった反動が一因と推察される。
- 一方、同月の外食産業客数は6か月ぶりに前年同月の水準を下回った。
- ただし、外食産業売上高は客単価の押し上げにより、20か月連続で前年同月の水準を上回った。

1. 4月の家計の実質外食支出は3か月ぶりに前月比マイナス

総務省が6月5日に発表した2018年4月の「家計調査」によると、全国の1世帯あたり実質外食支出（2人以上の世帯、学校給食を除く、季調済）は前月比2.1%減（前年同月比0.1%増）と3か月ぶりに前月の水準を下回った（図表1）。例年に比べて桜の開花時期が早まったことなどから前月の実質外食支出金額が高い伸びとなっており（3月、前月比2.2%増）、当月はその反動が生じたことが一因と推察される。

なお、3か月後方移動平均でみたトレンドは増加基調にある。

2. 外食産業客数は6か月ぶりに前年同月比マイナス

4月の実質外食支出が前月（3月）の高い伸びの反動で前月比マイナスとなったことは、外食チェーンの業界統計指標の推移からも推察できる。一般社団法人日本フードサービス協会が5月25日に発表した「外食産業市場動向調査」によると、4月の外食産業客数は前年同月比0.9%減と6か月ぶりに前年同月の水準を下回った。前月（3月）の外食産業客数は同3.0%増と比較的高い伸びであったことを踏まえると、例年であれば4月に来店する顧客の一部が前月に来店したことにより、4月の客数が前年同月に比べて伸び悩んだ可能性があるかと推察される。

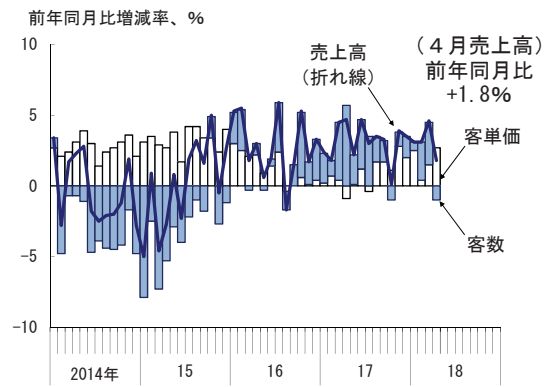
ただし、客単価の押し上げにより、外食産業売上高（名目値）は同1.8%増と20か月連続で前年同月の水準を上回っており、依然として増加基調にある。

図表1 4月の実質外食支出は3か月ぶりに前月比
マイナス（全国、2人以上の世帯、季調済）



注1：学校給食を除く外食（一般外食）。
注2：実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。
出所：総務省「家計調査」より浜銀総合研究所作成

図表2 外食産業客数は6か月ぶりに
前年同月比マイナス（全国、全店）



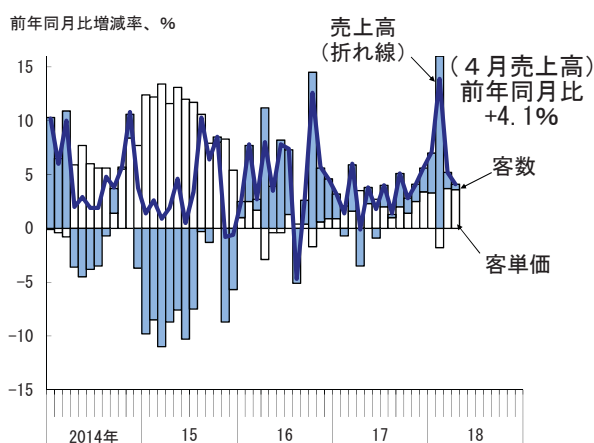
注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
出所：一般社団法人日本フードサービス協会
「外食産業市場動向調査」

3. 洋風ファストフードとディナーレストランでは客数が前年水準を上回る

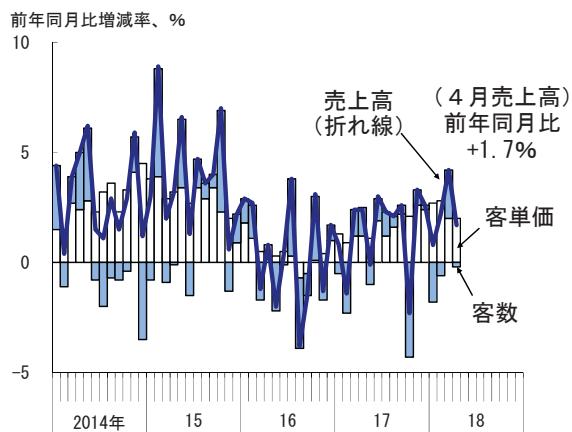
業態別の状況を見ると、客数が伸び悩むものの、客単価の伸びによって売上高が前年同月水準を上回る動きは和風ファストフード（図表3）やファミリーレストラン（図表4）で見られた。

これに対して、洋風ファストフードは客数の伸びが客単価の伸びを上回った。定番商品をアレンジした新商品の販売促進などが奏功したとみられる。また、ディナーレストランでは客数が前年同月水準を上回る状況が続いている¹。ファミリーレストランに比べてメニューの価格帯が高く、料理の質が高い同業態では天候などの特殊要因の影響が小さく、着実に客数を増やしている。

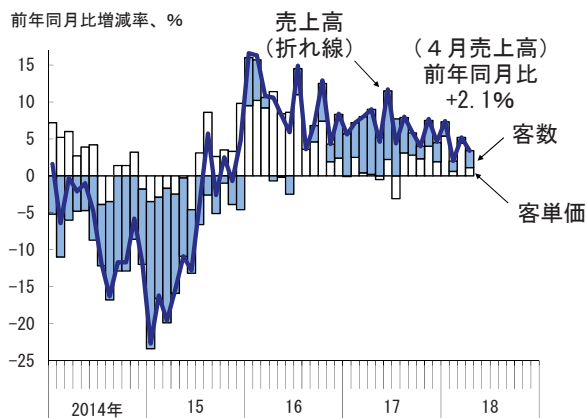
図表3 和風ファストフードの客数の伸びは前月を下回る



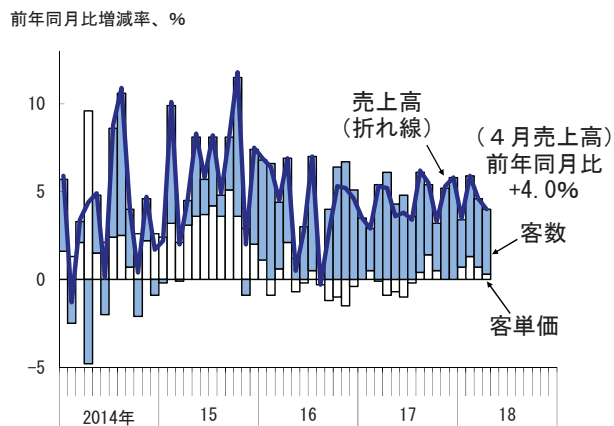
図表4 ファミリーレストランの客数は2か月ぶりに前年割れ



図表5 洋風ファストフードは客数の伸びが客単価の伸びを上回る



図表6 ディナーレストランでは客数が高い伸びを維持している



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。

注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。

出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

¹ ディナーレストラン業態の店舗数の推移をみると、2017年9月までは前年同月比プラスが続いており、店舗数の純増が客数の伸びの一因であったと推察される。しかし、17年10月以降、直近の18年4月までの店舗数は前年同月比マイナスであり、足元の同業態における客数の伸びには店舗数純増による影響はないと考えられる。